

擁壁展開図の作成

擁壁展開図を作成する操作手順を解説します。
本書では、上距離・下距離・擁壁長などを
すべて手入力して、次ページのような
擁壁展開図を作成する例で
解説します。

※解説内容がオプションプログラムの
説明である場合があります。
ご了承ください。

1. 入力例の説明	1
2. 作業現場情報の入力	2
2-1 [現場管理]を起動する	2
2-2 工区を作成する	3
2-3 現場を作成する	4
3. 擁壁データの入力	5
3-1 [擁壁展開図]を起動する	5
3-2 計算・表示の丸めを設定する	6
3-3 擁壁データを入力する	7
3-4 面積を確認する	10
3-5 計算書を作成する	11
3-6 [擁壁展開図]を終了する	12
4. 擁壁展開図の作成	13
4-1 [CAD]を起動する	13
4-2 CAD製図基準(案)のレイヤを設定する	14
4-3 展開図スタイルを設定する	16
4-4 展開図を配置する	17
4-5 図枠を配置する	20
4-6 表題欄を配置する	21
4-7 CAD製図基準チェックをする	22
4-8 SXFデータに保存する	24
5. 現場データの保存	25
5-1 現場データを保存する	25

1 入力例の説明

本章では、下記に示す流れに従い、[擁壁展開図]でデータを入力し、[CAD]で擁壁展開図を作成します。

作業現場情報の入力 (P.2)

- ・ 現場情報を入力する。

擁壁データの入力 (P.5)

- ・ 丸めの設定を行う。
- ・ 擁壁データを入力する。
- ・ 計算書を作成する。

擁壁展開図の作成 (P.13)

- ・ レイヤ、作図のスタイルを設定する。
- ・ データを読み込んで、配置を設定する。
- ・ 擁壁展開図を作成し、求積表を配置する。
- ・ 図枠、表題欄を配置する。
- ・ CAD製図基準(案)に沿っているかをチェックして修正する。

現場データの保存 (P.25)

- ・ 現場データを保存する。

プロッター・プリンターへの出力

- ・ 作図した擁壁展開図をプロッター・プリンターへ出力する。

2 作業現場情報の入力

[BLUETREND XA 2016 現場管理]では、BLUETREND XAで作成したデータを管理します。作業現場情報を詳細に入力することで、複数の現場(または図面)が管理しやすくなります。また、複数の現場をまとめた「工区」という単位で管理することもできます。工区は、作業現場の地区や時期などの条件によって分類することをお勧めします。

2-1 [現場管理]を起動する

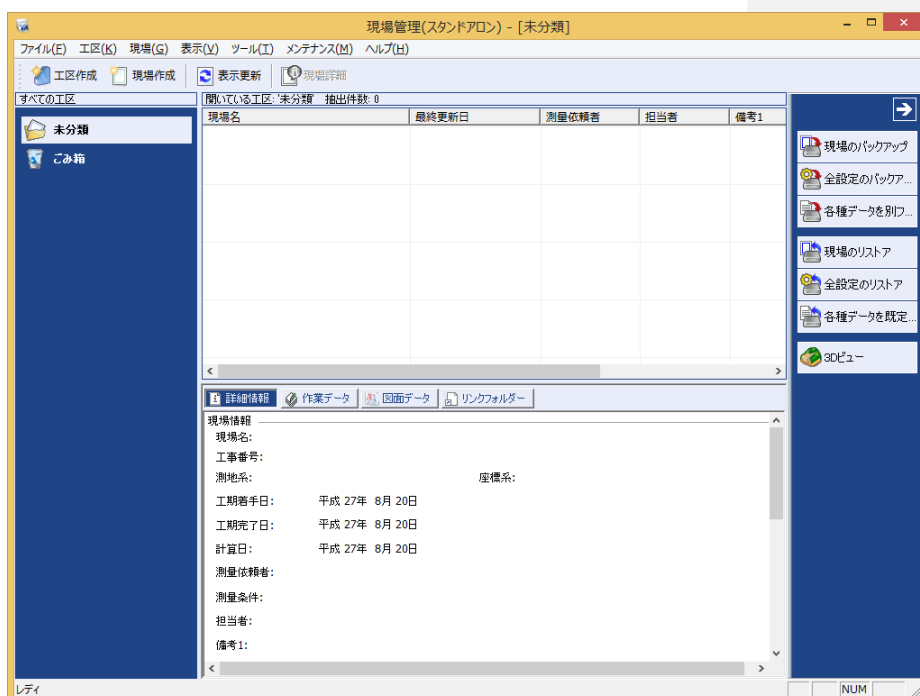
[BLUETREND XA 2016 現場管理]を起動します。本書ではWindows8.1における操作例で解説します。



1 デスクトップ画面で[BLUETREND XA 2016 現場管理]をダブルクリックします。



Windows7をお使いの方は、画面左下の[スタートボタン]–[すべてのプログラム]–[FukuiComputerApplication]–[BLUETREND XA 2016 現場管理]をクリックして起動することができます。



2-2 工区を作成する

関連のある複数の現場データをまとめる単位として[工区]があり、親工区とサブ工区に分けて現場データを階層管理することもできます。

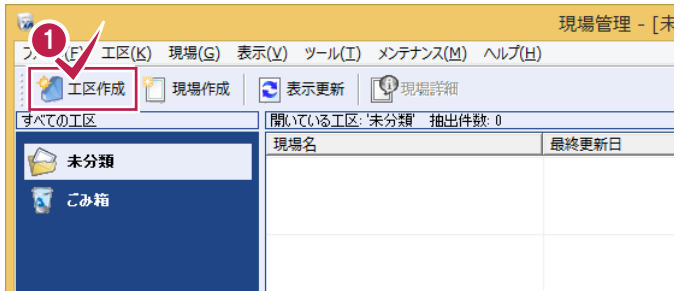
工区には名称をつけることができ、作成できる工区数にも制限はありません。(ハードディスク容量に依存)

工区で現場を分けることや現場情報を詳細に入力することにより、現場データを管理しやすくなります。

(工区の使用例：担当者別、発注者別、地区別、年度別、月別)

注意

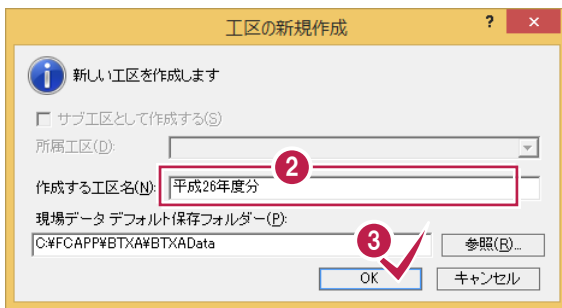
現場の詳細は現場データを少なくとも1度は保存しなければ設定できません。



1 [工区作成]をクリックします。

2 [工区名]を入力します。

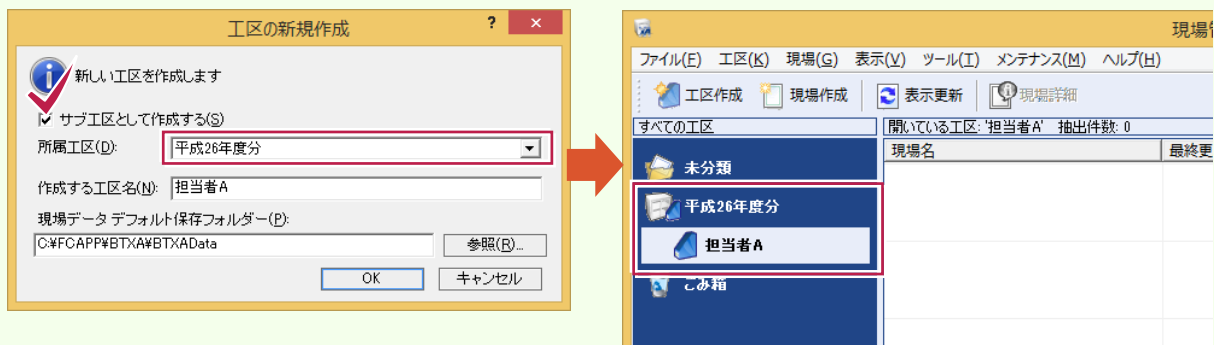
3 [OK]をクリックします。



メモ 工区の階層化について

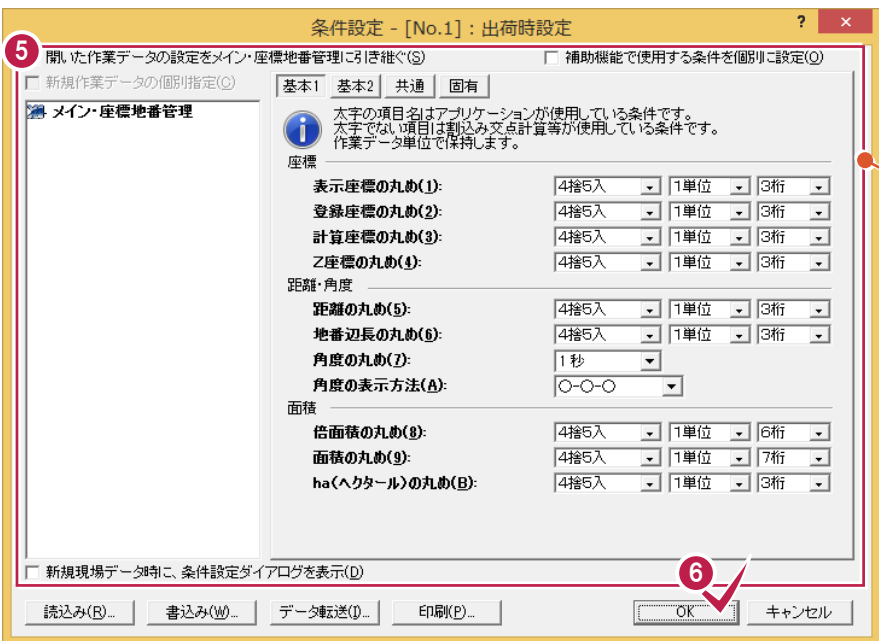
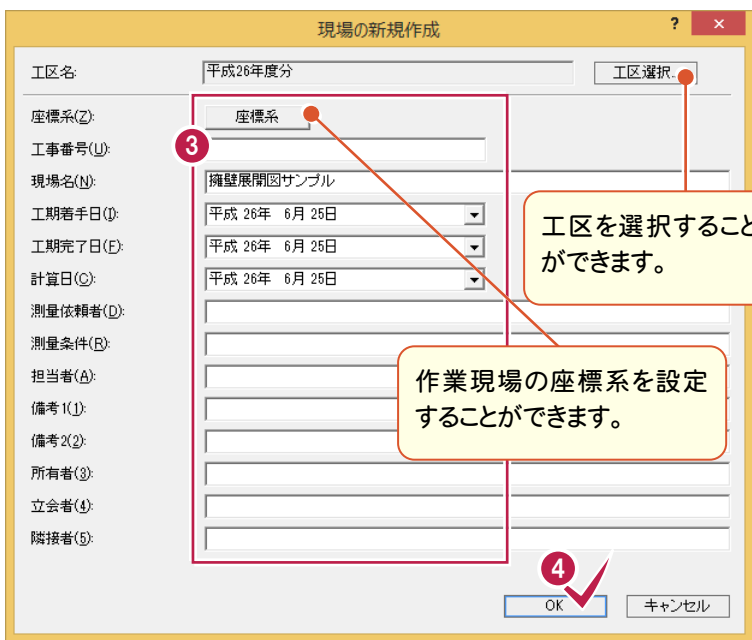
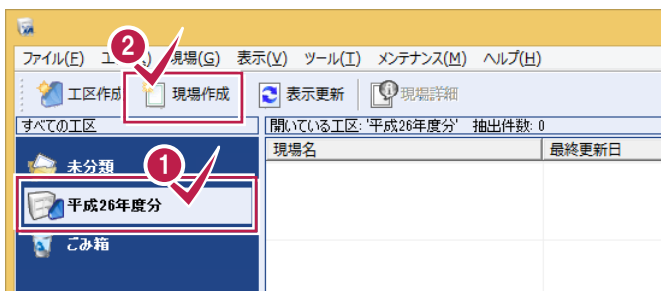
[サブ工区として作成する]にチェックを入れて、所属工区で親工区を選択することにより、親工区とサブ工区の2階層で仕分けすることができます。工区数が多くなった場合でも管理がしやすくなります。

(下図の例では、親工区を「平成 26 年度分」、サブ工区を「担当者 A」と設定しています。)



2-3 現場を作成する

現場を作成します。



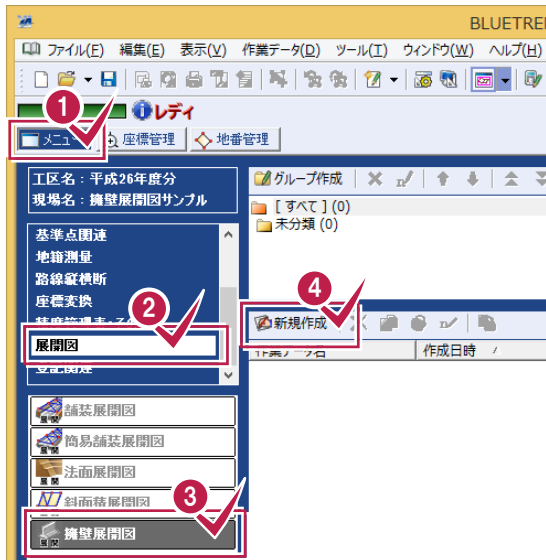
- 1 入力した工区をクリックします。
ここでは工区を新規作成したため、現時点では現場が存在しません。
- 2 [現場作成]のアイコンをクリックします。
- 3 [現場名]など、必要な項目を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。
BLUETREND XAの作業ウィンドウがアクティブになり、[条件設定]ダイアログが表示されます。
- 5 6 各タブをクリックして、各項目の設定を確認し、[OK]をクリックします。

メモ 起動モードについて
サーバーインストールした場合、ここで現場占有か現場共有かを選択することが可能です。詳細は[マニュアル]の[入門編]にある「共同作業の運用方法」を参照してください。

3 擁壁データの入力

[擁壁展開図]でデータを手入力し、面積を確認します。

3-1 [擁壁展開図]を起動する



1 2 3 4

メインメニューから[メニュー]タブをクリックし、[展開図]-[擁壁展開図]-[新規作成]をクリックします。

5 [初期条件]ダイアログで、各項目を設定します。ここでは、次のように入力します。

[路線名]: 擁壁展開図サンプル

[擁壁高入力の基準位置]: [底面高]

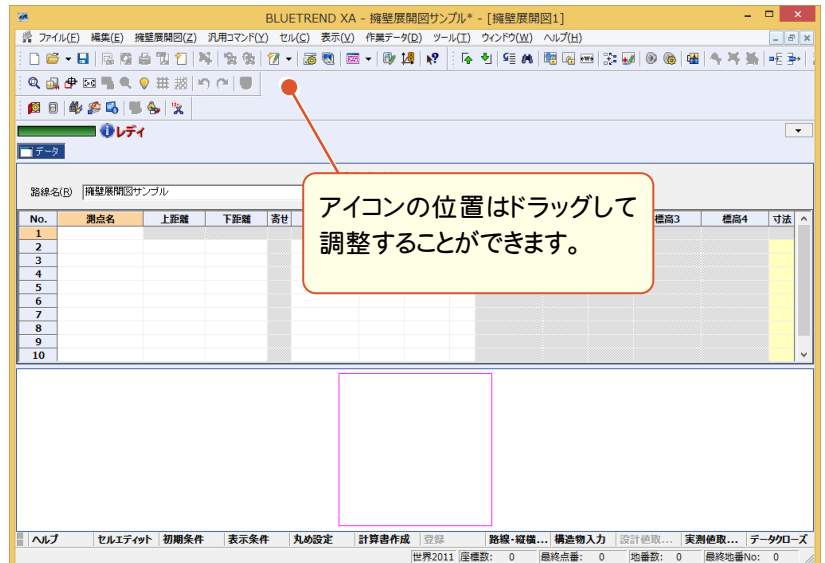
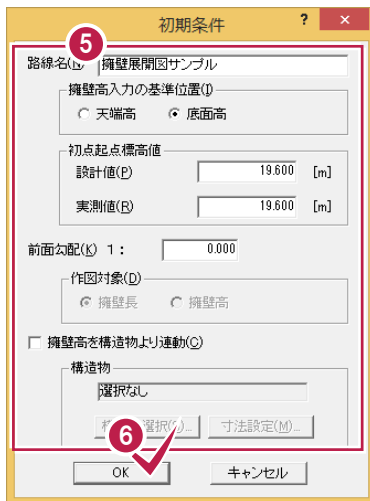
[初点起点標高値]の[設計値]: 19.6

〃 [実測値]: 19.6

[前面勾配]: 0

[擁壁高を構造物より連動]: チェックオフ

6 [OK]をクリックします。





「セルの固定」について

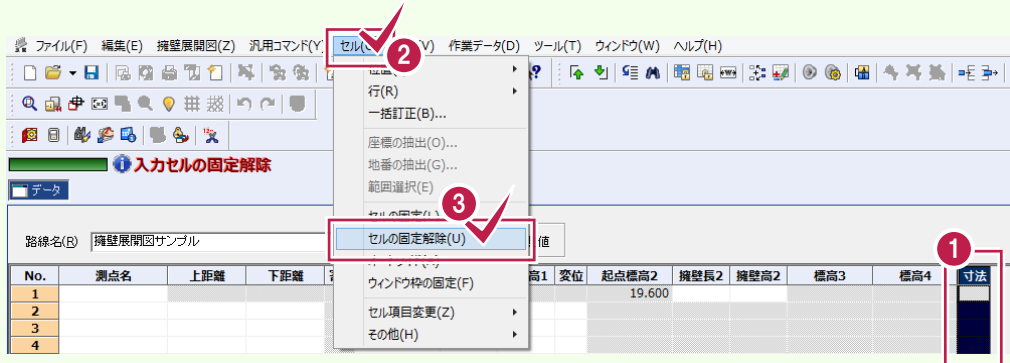
「セルの固定」とは、Enter キー、Tab キーでセルのフォーカスを移動しないように（アクティブセルにならないように）データ入力を補助する機能です。セルを選択状態にして[セル]－[セルの固定]で設定することができます。固定されたセルは出荷標準の設定では「黄色」で表示されます。



「セルの固定」の解除法

- 1
- 2
- 3

固定されたセルを選択状態にして[セル]－[セルの固定解除]をクリックします。



3-2

計算の丸めを設定する



- 1
- 2

[擁壁展開図]－[丸め設定]を順にクリックします。

- 3

各項目の設定を確認します。

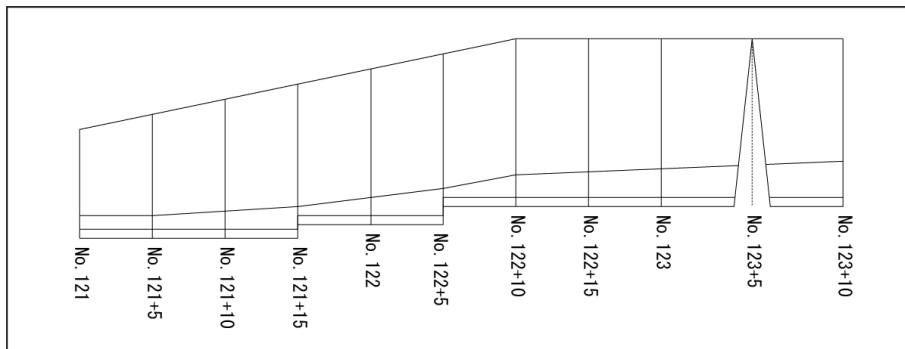
- 4

[OK]をクリックします。



3-3 擁壁データを入力する

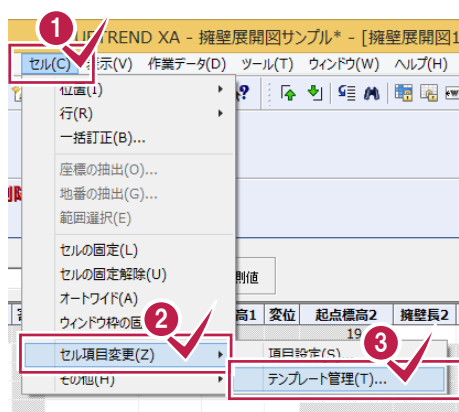
下図の擁壁データを入力します。



テンプレートを読み込む

最初に、テンプレートを読み込みます。

標準の設定では「底面厚さ」や「根入れ」等のデータを入力する項目がありません。ここでは「詳細テンプレート」を読み込むことで、項目を追加します。



① ② ③

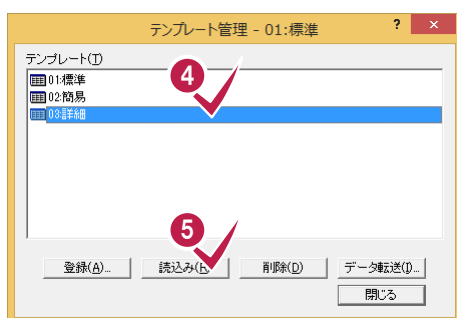
[セル]—[セル項目変更]—[テンプレート管理]を順にクリックします。

④

「03:詳細」を選択します。

⑤

[読み込み]をクリックします。



「No.121」を入力する

1つの作業データには[設計値]と[実測値]の2つのデータを入力することができます。
ここでは設計値として入力します。

[擁壁高2]は[擁壁長2]から自動計算されます。

- 1行目に次のように入力します。
[測点名]:No.121
[擁壁長2]:3.2
[底面厚さ]:0.3
[根入れ]:0.62

路線名(B) 擁壁展開図サンプル

入力データ(D)
 設計値 実測値

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620		20.220
3																	

「No.121+5」を入力する

[下距離]は[上距離]から自動計算されます。

[擁壁高1]は[擁壁長1]から自動計算されます。

- 2行目に次のように入力します。
[測点名]:No.121+5
[上距離]:5
[擁壁長1]:4
[底面厚さ]:0.3
[根入れ]:0.62

路線名(B) 擁壁展開図サンプル

入力データ(D)
 設計値 実測値

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620		20.220
2	No.121+5	5.000	5.000			4.000	4.000			4.000	4.000			0.300	0.620		
3						4.000	4.000			4.000	4.000						
4																	

残りのデータを入力する

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620		20.220
2	No.121+5	5.000	5.000		19.600	4.000	4.000		19.600	4.000	4.000	23.600	23.600	0.300	0.620		20.220
3	No.121+10	5.000	5.000		19.600	4.940	4.940		19.600	4.940	4.940	24.540	24.540	0.300	0.820		20.420
4	No.121+15	5.000	5.000		19.600	5.890	5.890	○	19.930	5.560	5.560	25.490	25.490	0.300	1.020		20.620
5	No.122	5.000	5.000		19.930	6.500	6.500	○	19.930	6.500	6.500	26.430	26.430	0.300	1.120		21.050
6	No.122+5	5.000	5.000		19.930	7.450	7.450		20.780	6.600	6.600	27.380	27.380	0.300	1.620		21.550
7	No.122+10	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.620		22.400
8	No.122+15	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.920		22.700
9	No.123	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.120		22.900
10	No.123+5	5.500	5.000	左	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.320		23.100
11	No.123+10	5.500	5.000	右	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.340		23.120

[上距離]と[下距離]が異なります。

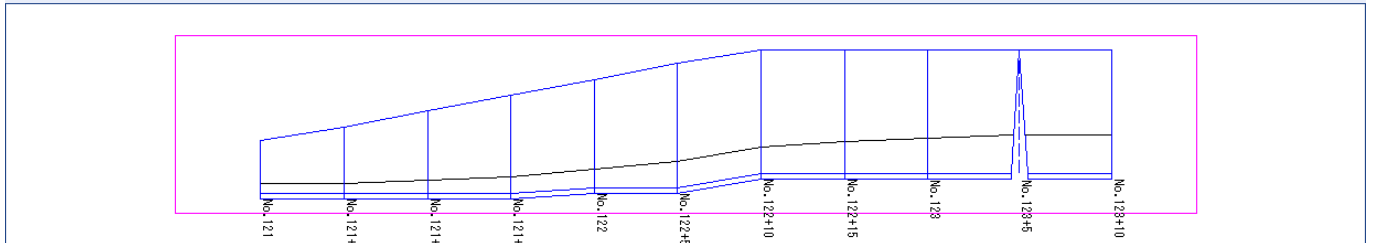
[寄せ]は、ダブルクリックまたはスペースキーで、「中央」→「右」→「左」を切り替えられます。

[変位]は、ダブルクリックまたはスペースキーで、「○」と空白を切り替えられます。

路線名(B) 擁壁展開図サンプル

入力データ
 設計値 実測値

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620	20.220	
2	No.121+5	5.000	5.000		19.600	4.000	4.000		19.600	4.000	4.000	23.600	23.600	0.300	0.620	20.220	
3	No.121+10	5.000	5.000		19.600	4.940	4.940		19.600	4.940	4.940	24.540	24.540	0.300	0.820	20.420	
4	No.121+15	5.000	5.000		19.600	5.890	5.890	○	19.600	5.890	5.890	25.490	25.490	0.300	1.020	20.620	
5	No.122	5.000	5.000		19.930	6.500	6.500		19.930	6.500	6.500	26.430	26.430	0.300	1.120	21.050	
6	No.122+5	5.000	5.000		19.930	7.450	7.450	○	19.930	7.450	7.450	27.380	27.380	0.300	1.620	21.550	
7	No.122+10	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.620	22.400	
8	No.122+15	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.920	22.700	
9	No.123	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.120	22.900	
10	No.123+5	5.500	5.000	左	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.320	23.100	
11	No.123+10	5.500	5.000	右	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.340	23.120	
12																	
13																	

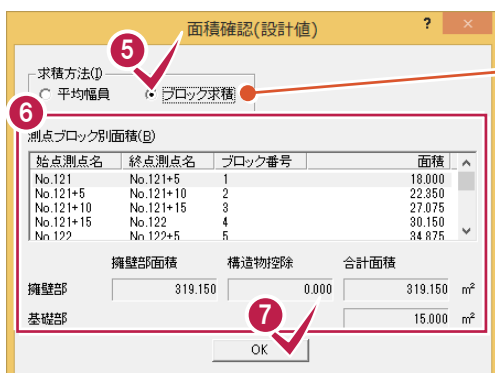
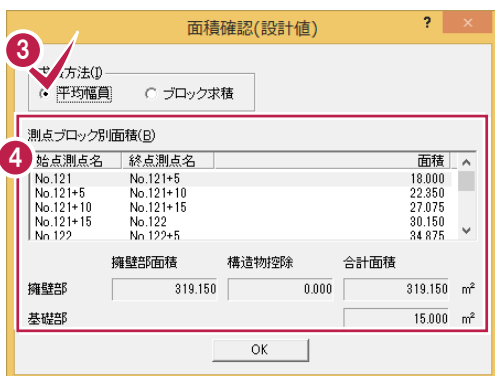


路線測量・縦横断測量データからの連動

ここではデータを手入力しましたが、[擁壁展開図]では[擁壁展開図]－[路線・縦横断データ読み]コマンドで路線測量データ、縦横断測量データを読み込むことができます。点名が[測点名]に、単距離が[上距離][下距離]に連動します。

3-4

面積を確認する



1 2

[擁壁展開図]-[面積確認]を順にクリックします。

3 4

[求積方法]が[平均幅員]の面積を確認します。

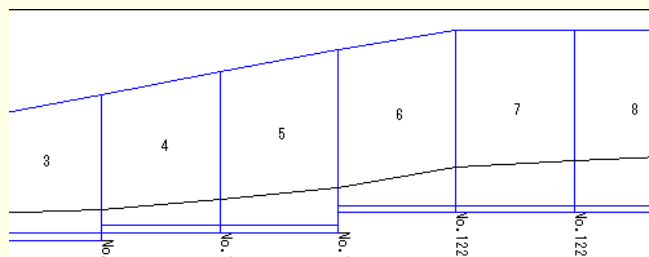
5

[求積方法]の[ブロック求積]をクリックします。

6 7

[ブロック求積]の面積を確認して[OK]をクリックします。

[求積方法]が[ブロック求積]のときは、CADビューにブロック番号が表示されます。



メモ

求積方法について

【平均幅員】

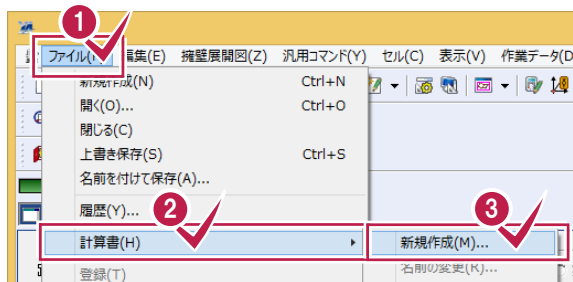
1. 「擁壁長 1」「擁壁長 2」を高さの丸めで、「上距離」「下距離」を距離の丸めで丸めます。
2. $(\text{擁壁長 1} + \text{擁壁長 2}) \div 2$ を計算し、平均高さの丸めで丸めます。
3. $(\text{上距離} + \text{下距離}) \div 2$ を計算し、平均距離の丸めで丸めます。
4. 2 の結果 \times 3 の結果を計算し、面積の丸めで丸めて面積を求めます。

【ブロック求積】

1. 「擁壁長」の方向が各ブロックの上辺、下辺になります。高さの丸めで丸めます。
2. 「上距離」「下距離」の方向が各ブロックの高さになります。距離の丸めで丸めます。
3. $(\text{上辺} + \text{下辺}) \times \text{高さ} \div 2$ を計算し、面積の丸めで丸めて面積を求めます。

3-5 計算書を作成する

擁壁展開図の計算書を作成します。ここでは平均幅員用の計算書を作成します。



1 2 3

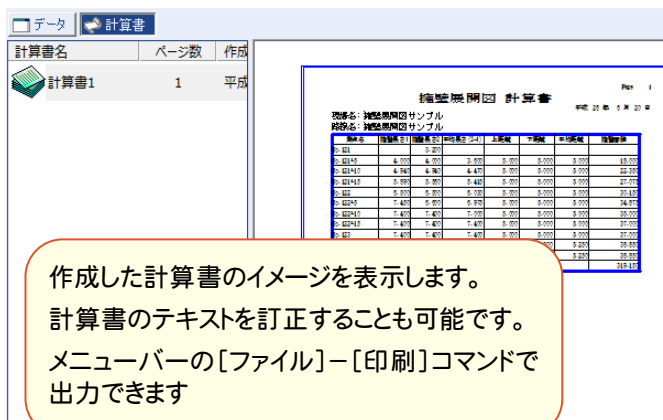
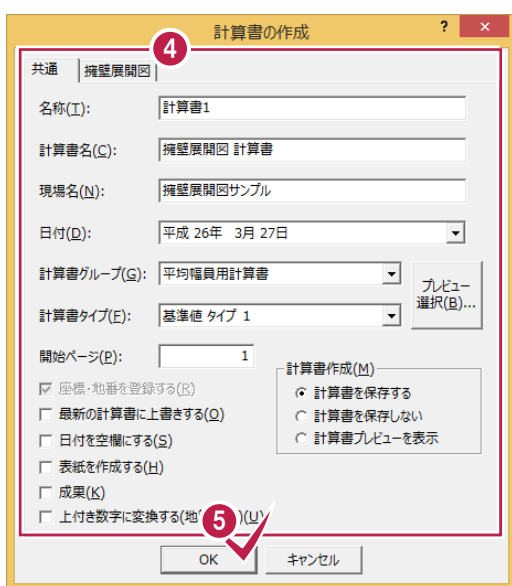
[ファイル] - [計算書] - [新規作成] をクリックします。

4

次のように設定します。
 [計算書グループ]: 平均幅員用計算書
 [計算書タイプ]: 基準値 タイプ1
 [計算書作成]: [計算書を保存する]

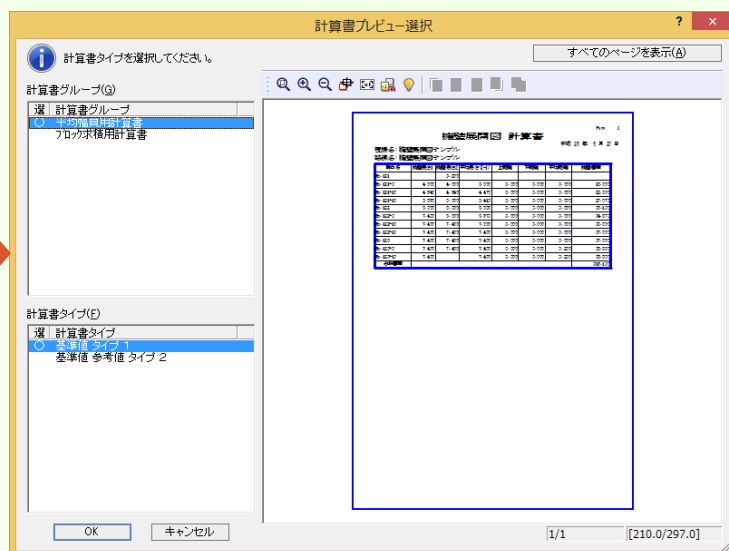
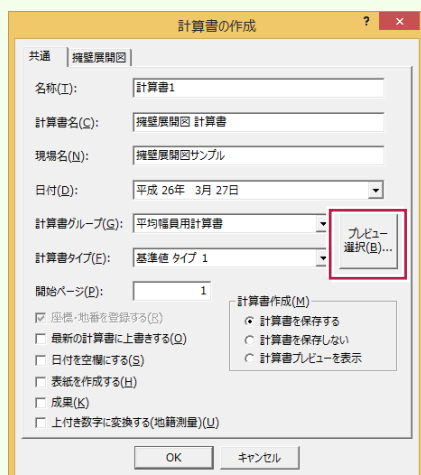
5

[OK] をクリックします。
 計算書が作成されます。



メモ プレビュー選択について

作成する計算書をプレビューで確認することができます。

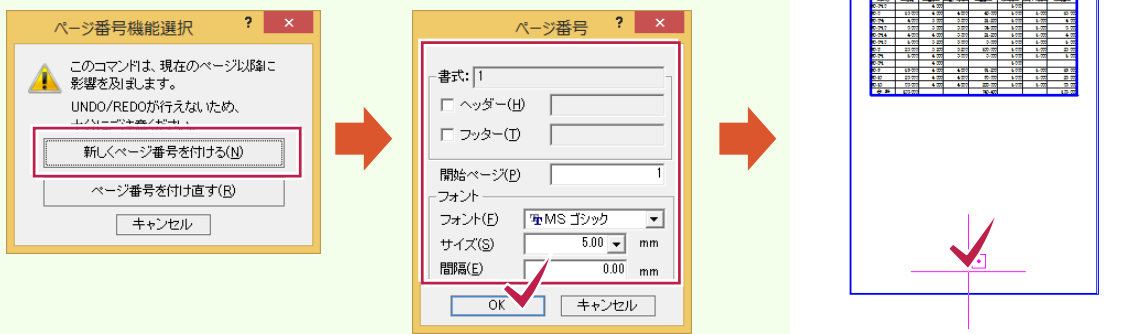


メモ

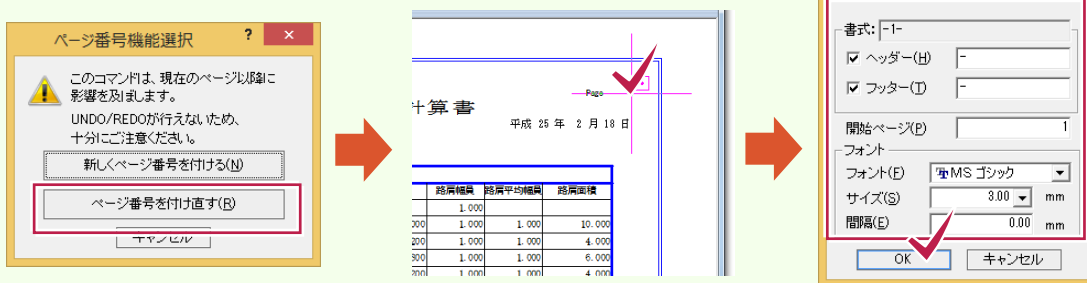
計算書のページ番号について

[データ編集] - [ページ通し] - [ページ番号] コマンドで、作成した計算書の現在のページから最終ページまで、一括で新たにページ番号を付けたり、付け直したりすることができます。詳しくはヘルプを参照してください。

■新しくページ番号を付ける場合の例



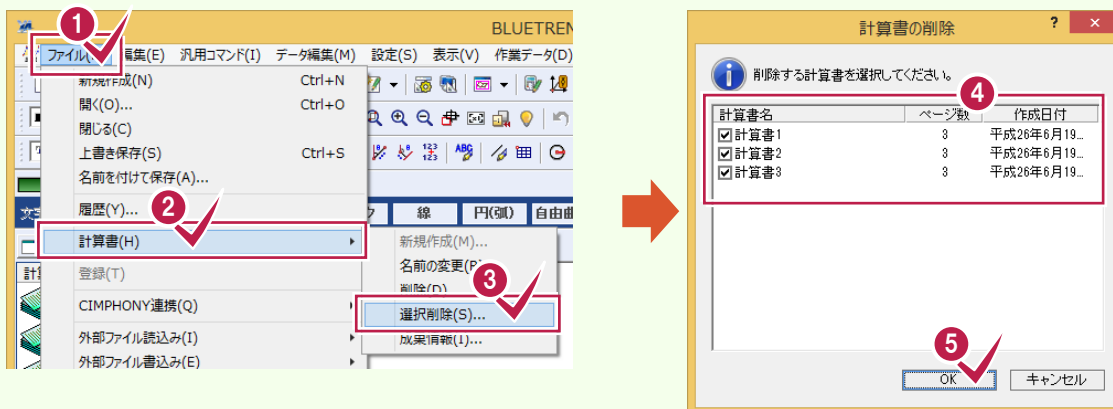
■ページ番号を付け直す場合の例



メモ

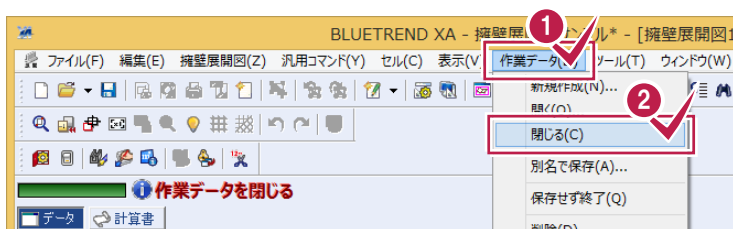
複数の計算書を削除するには

[ファイル] - [計算書] - [選択削除] コマンドで、複数の計算書を選択して削除することができます。



3-6

[擁壁展開図]を終了する



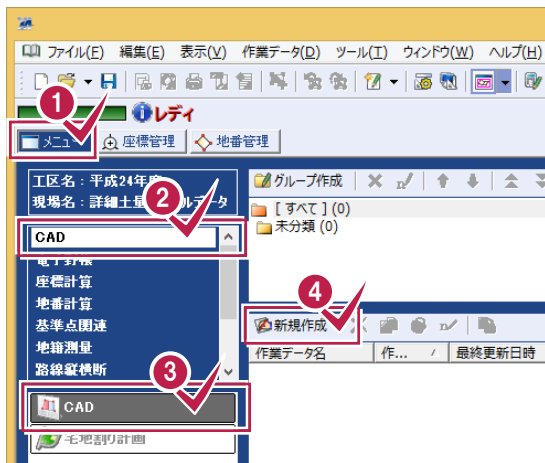
1 2

[作業データ] - [閉じる] をクリックします。
[擁壁展開図] ウィンドウが閉じ、メインメニューへ戻ります。

4 擁壁展開図の作成

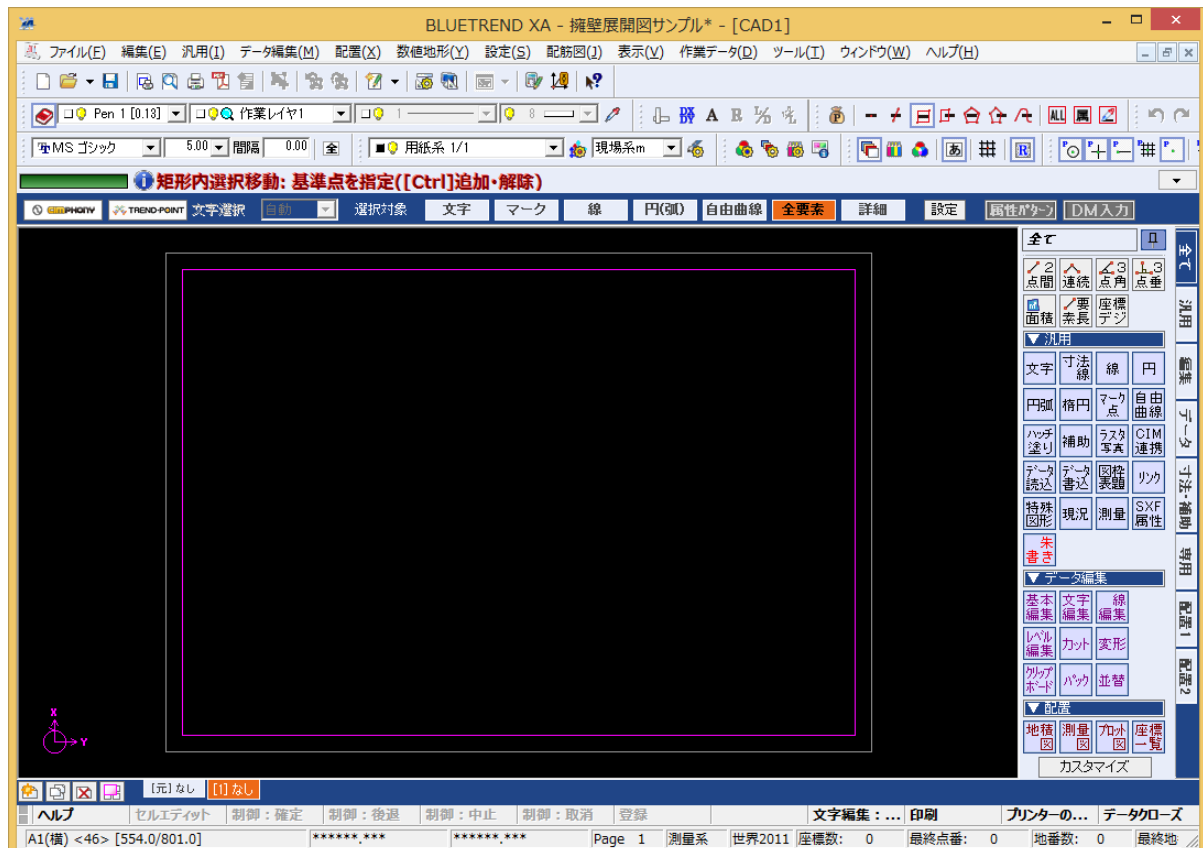
[CAD]に[擁壁展開図]で入力した作業データを読み込み、配置する用紙を選択し、CAD上にCAD製図基準(案)に沿った擁壁展開図を自動作成します。

4-1 [CAD]を起動する



1 2 3 4

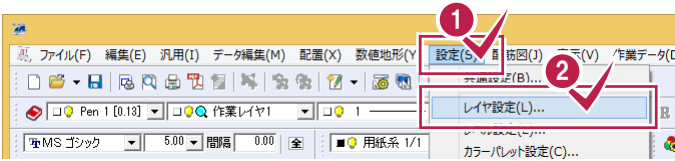
メインメニューで[メニュー]タブをクリックし、[CAD]–[CAD]–[新規作成]をクリックします。



4-2

CAD 製図基準(案)のレイヤを設定する

編集するためのレイヤもCAD製図基準(案)のレイヤに沿って配置するため、作業レイヤにテンプレートを読み込みます。

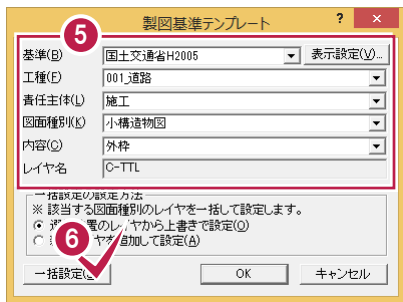
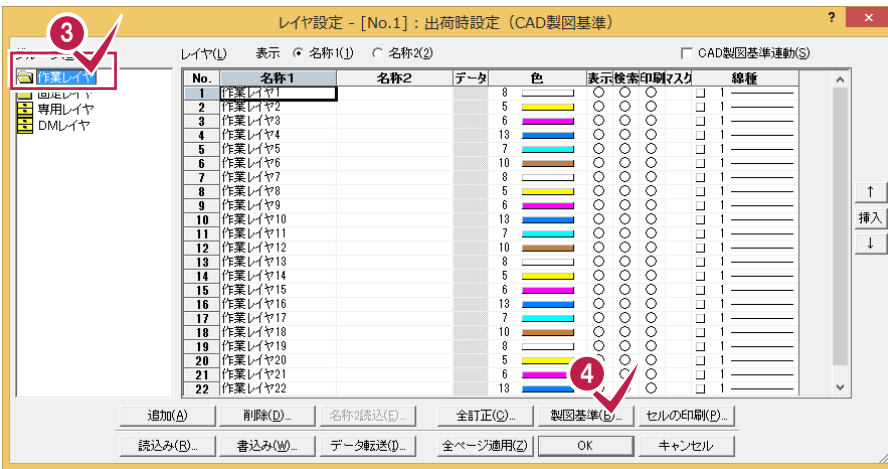


1 2

[設定]—[レイヤ設定]を順にクリックします。

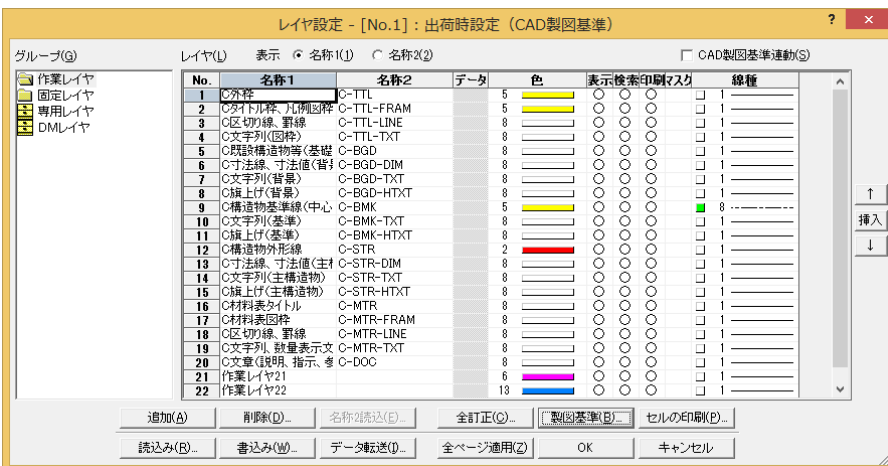
3 4

[作業レイヤ]を選択して、[製図基準]をクリックします。



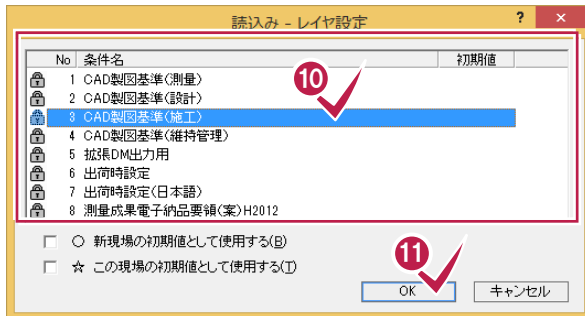
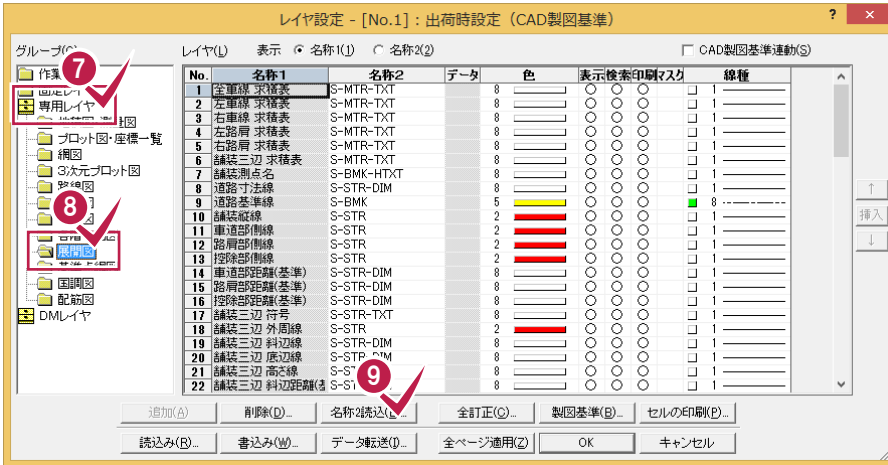
5 6

下図のように各項目を設定し、
[一括設定]をクリックします。
[基準]:国土交通省H2005
[工種]:001_道路
[責任主体]:施工
[図面種別]:小構造物図



メモ レイヤー一覧
[マニュアル]の[その他資料]に、レイヤの名称一覧(レイヤ名称一覧_CAD製図基準など)が格納されていますので、印刷してお使いください。

続けて、[固定レイヤ][専用レイヤ]の設定を行います。([固定レイヤ][専用レイヤ]は同時に取り込まれます。)

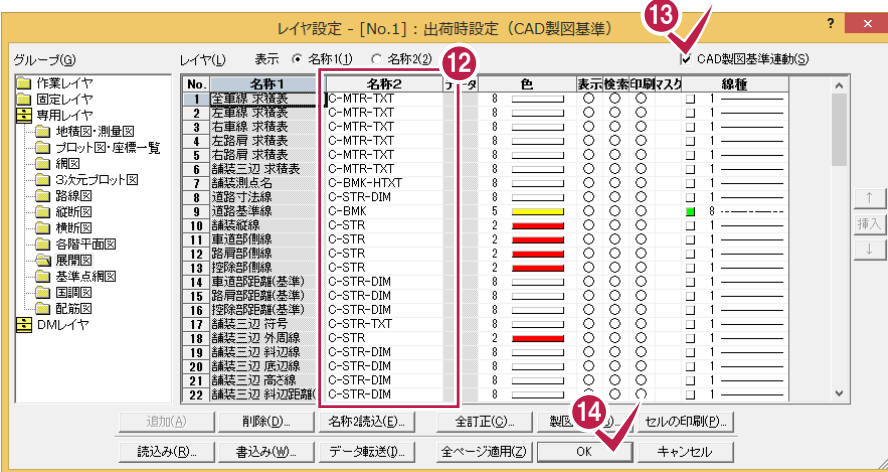


7 8 9

[専用レイヤ]-[展開図]を選択して
[名称2読込]をクリックします。

10 11

「CAD製図基準(施工)」を選択
し、[OK]をクリックします。
[名称2]が読み込まれて、[レイヤ
設定]ダイアログへ戻ります。



12 13 14

[名称2]の先頭が「C」に変更さ
れていることを確認し、[CAD製
図基準運動]のチェックをオンに
して、[OK]をクリックします。



【CAD製図基準運動】

チェックをオンにすると、データを入力するときのレイヤや色などが、CAD製図基準(案)に沿った約束事に固定(運動)されます。また、レイヤ設定は、基本的にデータ入力前に行います。

4-3 展開図のスタイルを設定する

作図条件を設定します。

コンピューターに図面を自動で描かせるために展開図スタイル(文字のサイズ、位置、向き、線の太さ等)の設定を行います。



1 2 3

[全て]タブの[配置]グループの[擁壁展開図]-[スタイル]をクリックします。

4

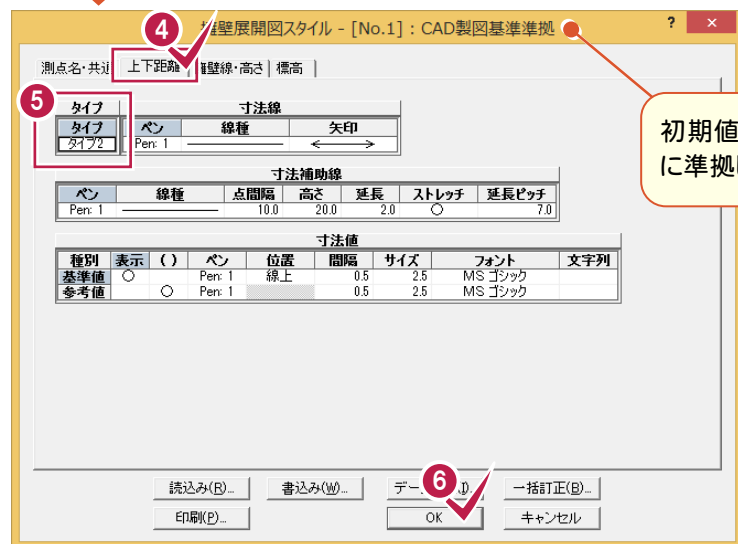
[上下距離]タブをクリックします。

5

[タイプ]が「タイプ2」であることを確認します。
各項目の設定内容については、ヘルプを参照してください。

6

[OK]をクリックします。



[書込み][読み込み]

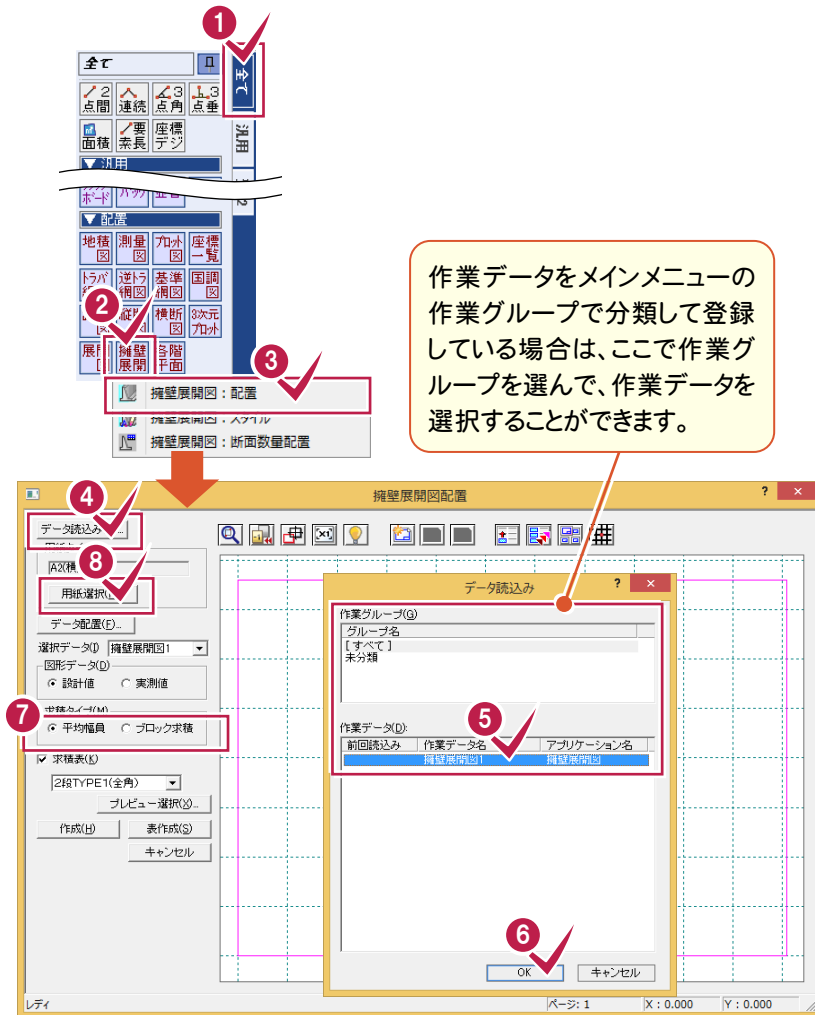
設定内容を変更した場合などは、[書込み]ボタンで設定内容を保存することができます。
この保存した設定は、[読み込み]ボタンで読み込むことができます。

4-4

展開図を配置する

[擁壁展開図]の作業データを読み込み、用紙サイズ・配置位置を指定してCAD上に配置します。

データを読み込んで用紙を設定する



1 2 3

[全て]タブの[配置]グループの[擁壁展開図]-[配置]をクリックします。

4 5 6

[データ読み込み]をクリックして、読み込む擁壁展開図データを選択して、[OK]をクリックします。

7

[選択データ]に読み込んだ擁壁展開図の作業データ名が表示されていることを確認します。

8

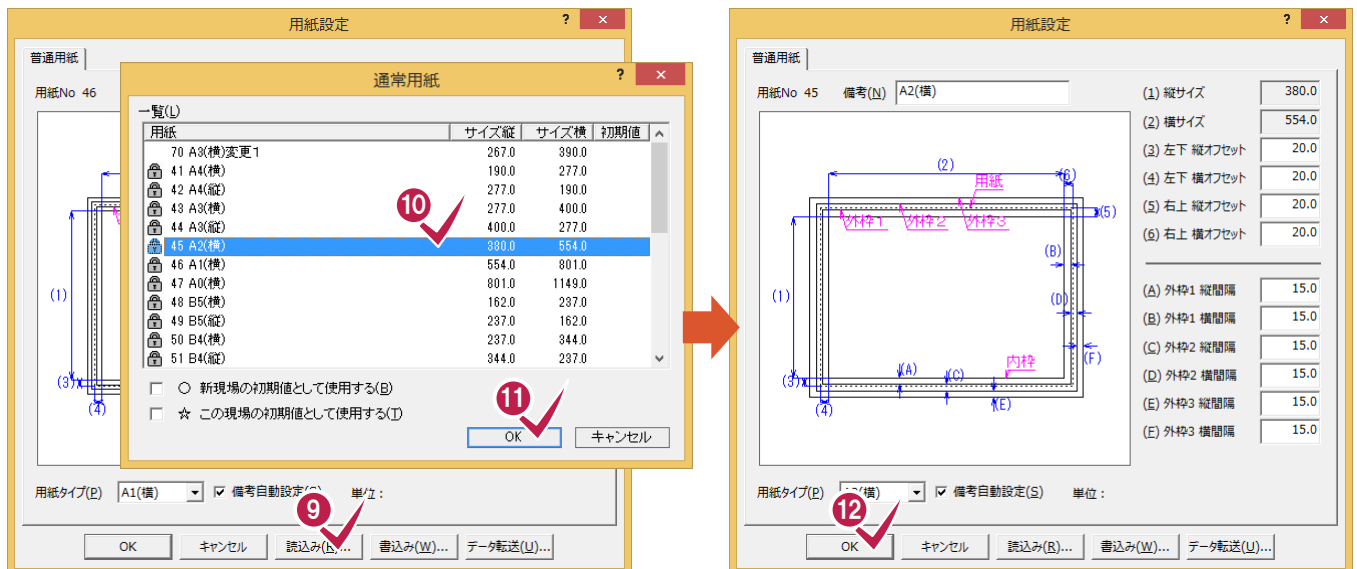
[用紙選択]をクリックします。

9 10 11

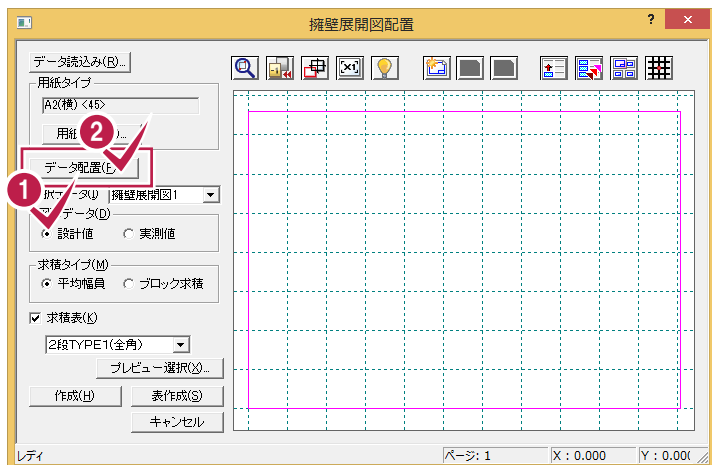
[読み込み]をクリックして、「45 A2(横)」を選択して、[OK]をクリックします。

12

読み込まれた用紙情報を確認して、[OK]をクリックします。



データ配置を設定する

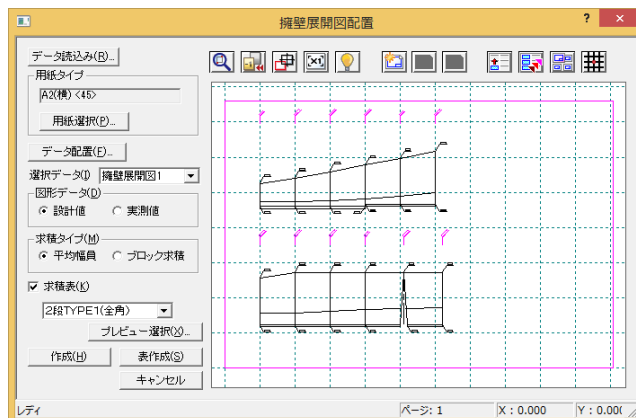


セル内をダブルクリックして表示される[▼]ボタンをクリックします。測点のリストが表示されますので、入力する測点を選択します。

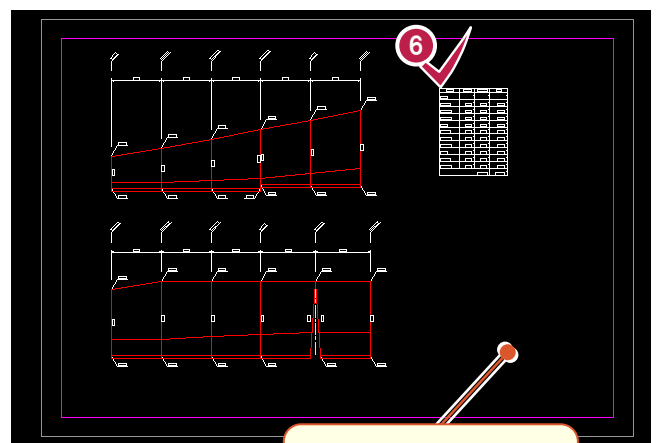
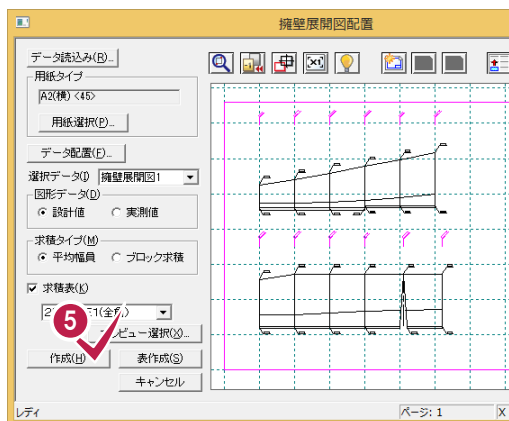
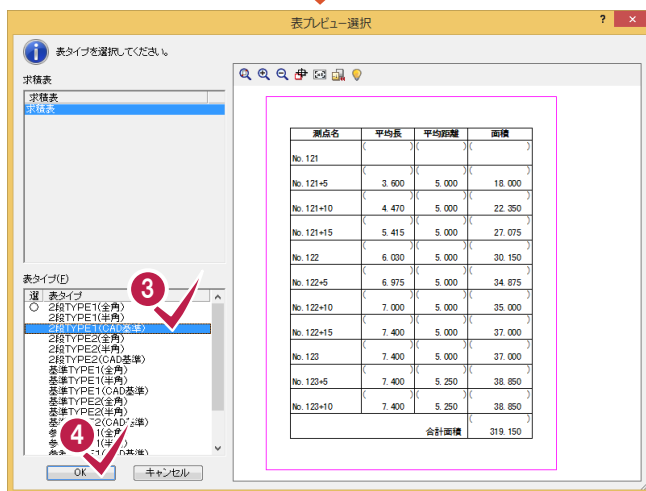
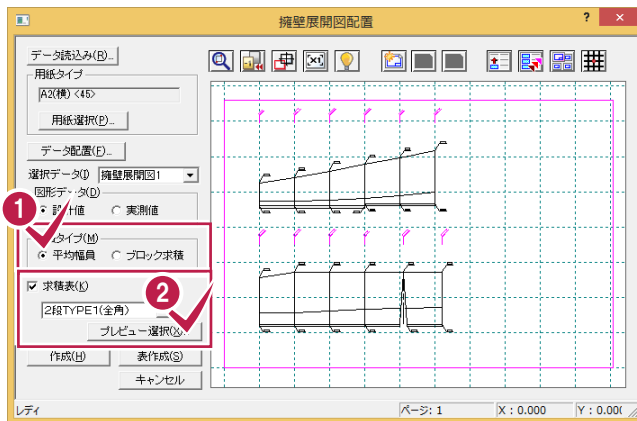


No.	ページ	列	開始測点名	終了測点名	限界測点名
1	1	1	1 : No.121	6 : No.122+5	10 : No.123+5
2	1	2	6 : No.122+5	11 : No.123+10	11 : No.123+10

- 1 [擁壁展開図配置]ダイアログで、設計値・実測値のどちらを配置するかを選択します。
[図形データ]: [設計値]を選択
- 2 [データ配置]をクリックします。
- 3 縮尺と配置寸法を設定します。
[縮尺] [縦]: 100
[横]: 100
[配置寸法] [オフセット縦]: 50
[オフセット横]: 50
[上下間隔]: 180
- 4 配置するデータの範囲を指定します。ここでは全範囲を2分割して配置します。次のように入力してください。
No1 [開始測点名] 1:No.121
[終了測点名] 6:No.122+5
No2 [開始測点名] 6:No.122+5
[終了測点名] 11:No.123+10
- 5 その他の項目を右図のように設定して、[OK]をクリックします。
[擁壁展開図配置]ダイアログへ戻り、データの配置イメージがプレビューされます。



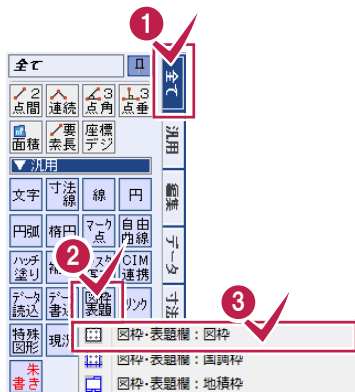
展開図を作成して求積表を配置する



表題欄の場所を空けて配置します。

- 1 求積方法を選択します。
[求積タイプ]: [平均幅員]を選択
- 2 [求積表]のチェックをオンにし、
[プレビュー選択]をクリックします。
- 3 4 [表タイプ]から「2段TYPE1 (CAD基準)」を選択して、プレビューを確認し[OK]をクリックします。
- 5 [作成]をクリックします。
- 6 マウスマウスの位置に表が表示されますので、求積表を配置する位置をクリックします。

4-5 図枠を配置する



1 2 3

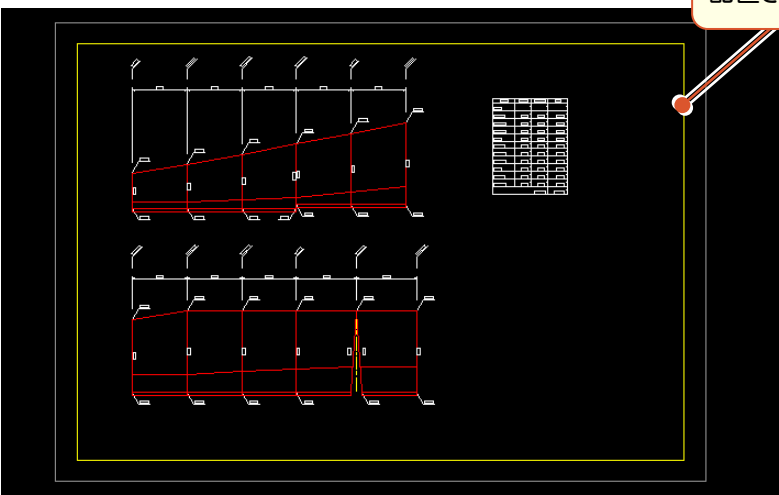
[全て]タブの[汎用]グループの[図枠・表題欄]-[図枠]をクリックします。

4 5

[枠設定]タブをクリックして、外枠・内枠、ペンNoを下記のように設定します。

- [外枠1]:なし
- [内枠]:あり
- [ペンNo]:Pen7 [1.00]

6 [OK]をクリックします。



配置された図枠

4-6

表題欄を配置する



1 2 3

[全て]タブの[汎用]グループの[図枠・表題欄]-[表題欄]をクリックします。

4 5

各項目を左図のように設定し、[OK]をクリックします。

6 図面の右下(枠線の隅部分)をクリックして、表題欄を配置します。

図面表題欄

対応種別(B) 国土交通省 16年度以降基準 準拠 表題一覧(M)...

配置する項目を指定(O)

表題欄(規定) | 表題欄(任意)

工事名(N) 擁壁展開図サンプル工事

図面名(I) 擁壁展開図

図面番号(U) 1 総図面数(A) 1

尺度(S) 100

作成年月日(C) 平成 26年 3月 27日 区切り(K) 和暦

日付データを有効にする(D)

受注会社名(Q) □□□□

発注事業者名(M) △△△△

事業名(E)

契約区分(D)

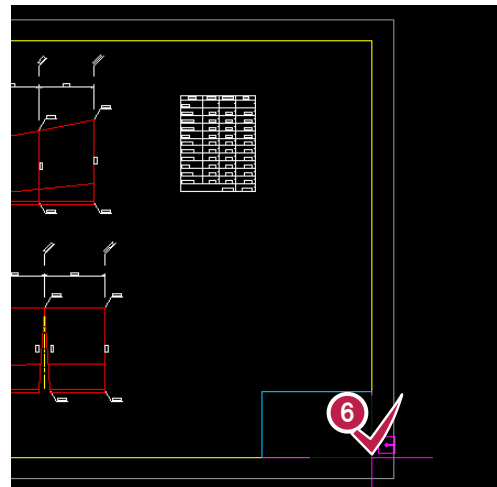
図面種別(Y)

追加した項目の配置設定

文字を配置(G) 配置せず保持のみ(V) 表題欄全体を再配置(X)

配置文字設定(U)...

内容保持(H) OK キャンセル



4-7

CAD 製図基準チェックをする

CAD製図基準チェックを実行します。



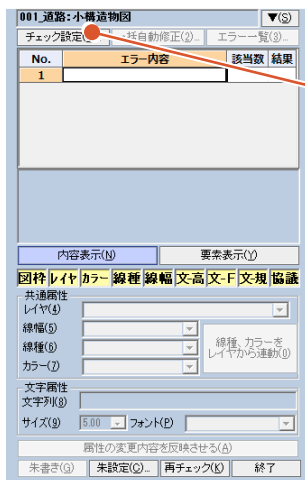
- 1
- 2
- 3

[全て]タブの[汎用]グループの[CAD製図基準チェック]をクリックします。

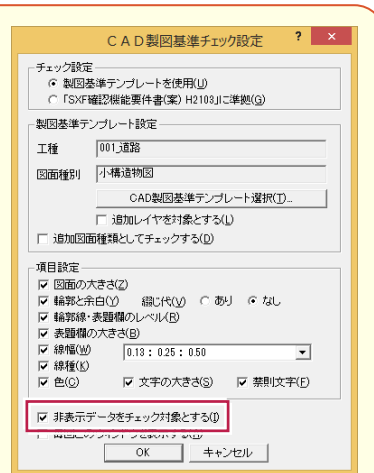
CAD製図基準チェックが実行され、チェックの結果すべてのデータが正常であった場合には、下図のようなメッセージが表示されます。

- 4 [OK]をクリックします。

CAD製図基準に準拠されていない箇所が発見された場合には、画面左にチェック結果が表示されます。エラー箇所が発見されたら、一括もしくは個別修正を行います。一括自動修正については、次ページの[メモ]を参照してください。

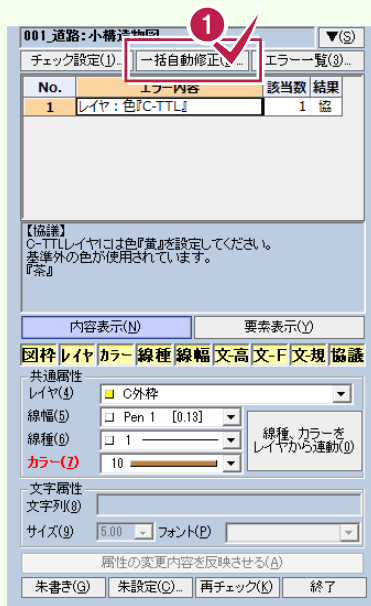


[チェック設定]で「非表示データをチェック対象とする」をオンにすると非表示データについてもチェックを行います。

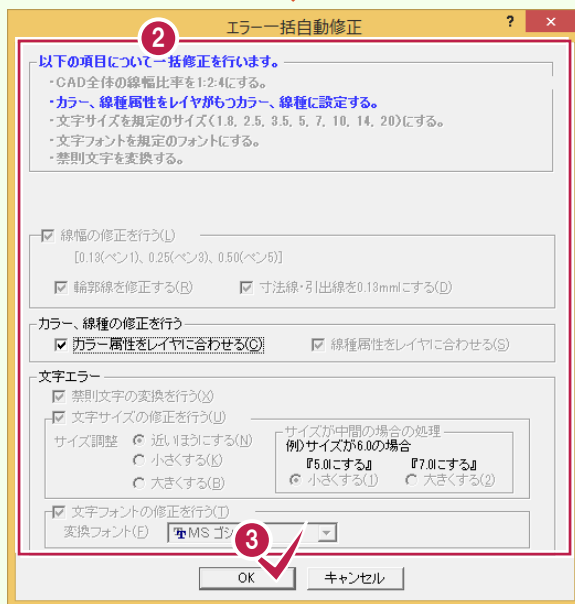


メモ

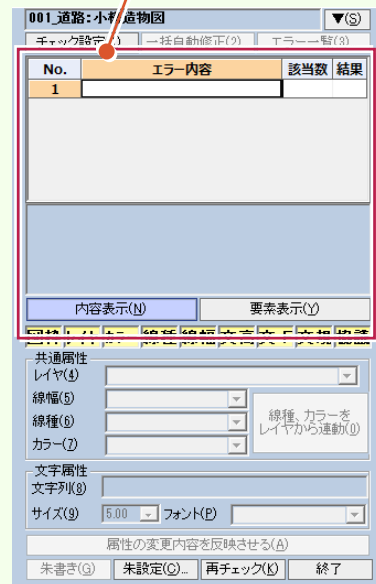
エラーを一括して自動修正する



- 1 [一括自動修正]をクリックします。
- 2 修正内容の確認と設定を行います。操作例では確認のみとします。
- 3 [OK]をクリックします。自動修正処理が実行され、終了するとエラー個数の確認メッセージが表示されます。
- 4 [OK]をクリックします。エラー箇所が修正され、チェック結果から修正したエラー要素の表示が消えます。

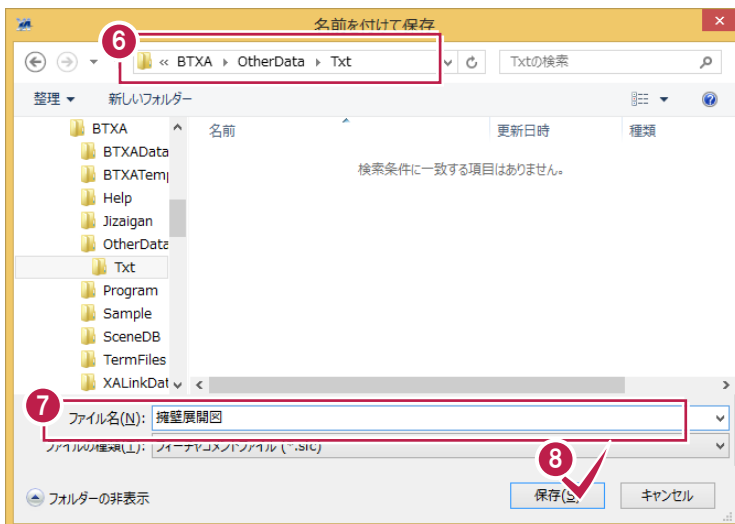
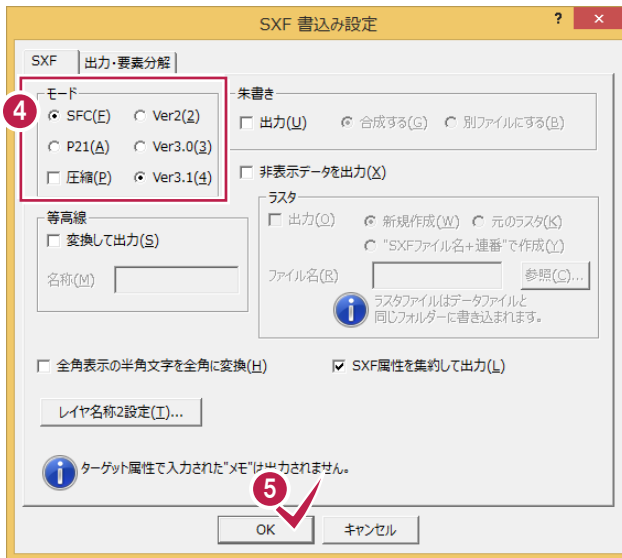
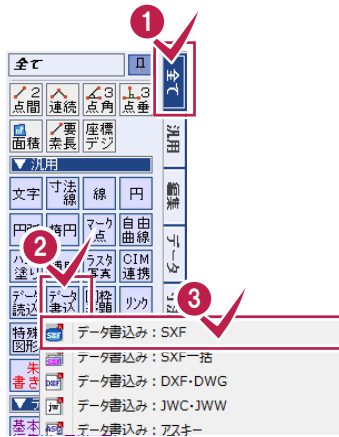


エラー箇所がすべて修正されたことが確認できます。



4-8 SXF データに保存する

CAD製図基準に準拠したデータをSXF仕様のデータに保存します。



1 2 3

[全て]タブの[汎用]グループの[データ書き込み]-[SXF]をクリックします。

4 5

ファイル形式、SXFバージョンを設定して、[OK]をクリックします。

6 7 8

保存先、ファイル名などを設定して[保存]をクリックします。

9 保存処理が実行され、完了すると確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



5 現場データの保存

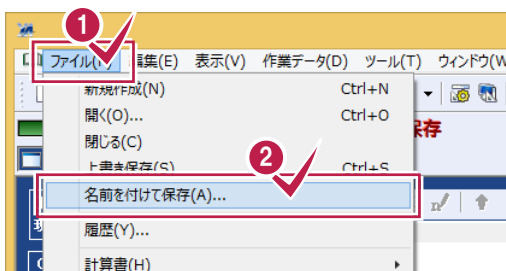
BLUETREND XAでの作業データはメモリ上に保存されているために、[ファイル]–[名前を付けて保存]コマンドもしくは[ファイル]–[上書き保存]コマンドを実行するまでハードディスクに保存されていません。ハードディスクに保存せずに、BLUETREND XAを終了したり、コンピューターの電源を切ったりするとデータが消滅します。

[上書き保存]と[名前を付けて保存]の違いは、現場ファイル名を変えずにそのとき保存するか、名前を変えて別ファイルに保存するかです。新規の現場データでは[名前を付けて保存]、内容を変更してそのまま保存する場合は、[上書き保存]を選択します。

こまめに保存することで、不慮の事故によってシステムダウンした場合に影響が少なく済みます。作業データを入力・変更したとき、各作業を終了するたびに保存することをお勧めします。

ただし、作業データ単位での保存はできません。[ファイル]–[名前を付けて保存]コマンドを実行して複数の作業データを1つの現場データとして保存します。

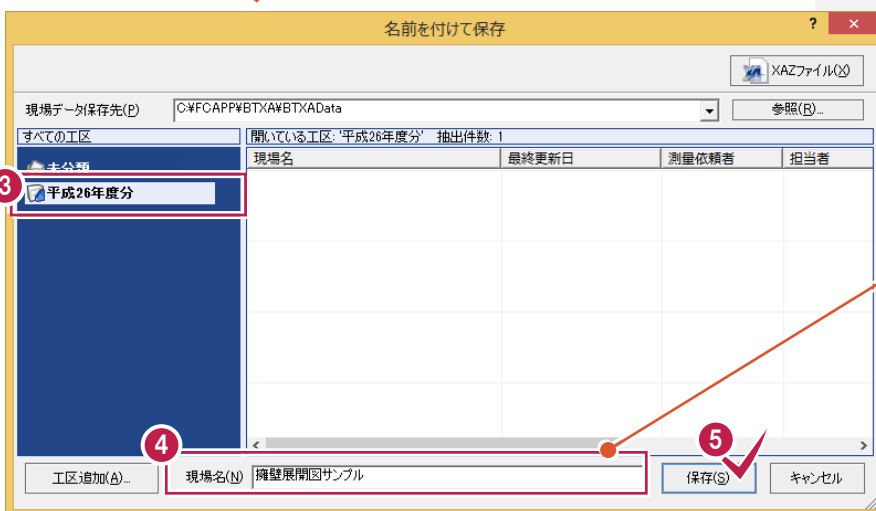
5-1 現場データを保存する



1 2
[ファイル]–[名前を付けて保存]を順にクリックします。

3 [工区]を確認します。

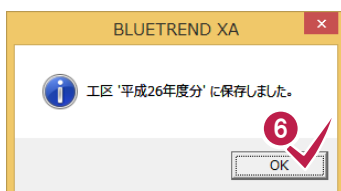
4 [現場名]を確認します。



現場名には、[現場の新規作成]ダイアログで入力した[現場名]の文字列が表示されます。

5 [保存]をクリックします。

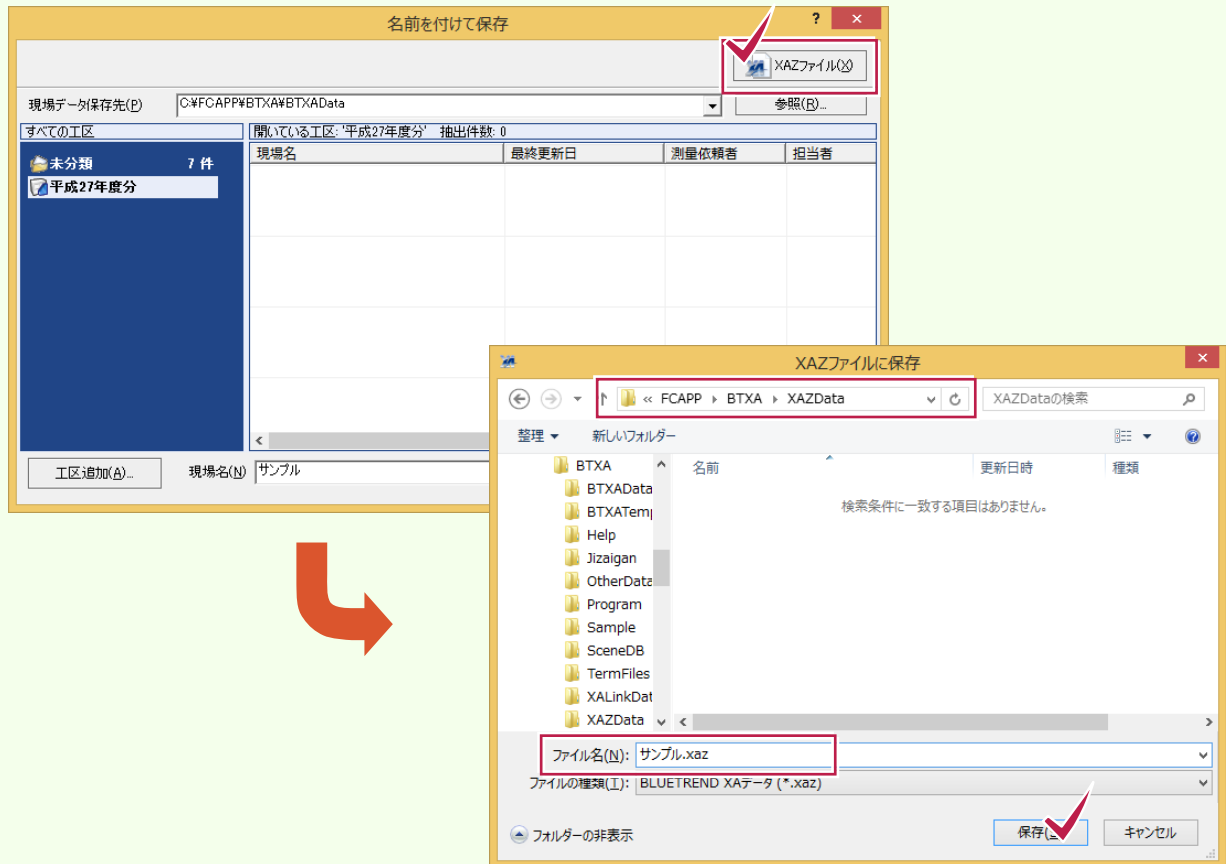
6 [OK]をクリックします。





XAZ ファイルについて

[名前を付けて保存]ダイアログで[XAZ ファイル]を選択すると、データを xaz 形式に圧縮して指定したフォルダーに保存することができます。



上書き保存について

上書き保存を実行すると、前回保存したデータに上書きされ、前回のデータはなくなります。前回のデータを残す場合は、[ファイル]–[名前を付けて保存]コマンドを使用してください。